

竹林の整備と搬出作業



林の視察です。また、県普及協会の「森林整備担い手育成確保対策事業」では、地域貢献をモットーに、その年度ごとにテーマを掲げて活動しています。

平成18年度は、間伐材の有効利用をテーマに、会員の山から伐り



三木「NWS」の森研究会の皆さん

WE LOVE forest!
林業研究グループ

三木「NWS」の森研究会

香川県木田郡三木町

会員数	28名
設立	平成6年7月

■「NWS」は「NWS」と読みます
「三木「NWS」の森研究会」のある三木町は、高松市の東部に隣接する温暖少雨のみどり豊かな町です。北部に広がる平野は農村地帯である一方、ベッドタウンとして人気があります。南部に広がる森林は約3000haで町全体の4割を占めています。人工林は松くい虫被害跡地に植えられたヒノキが中心で、ようやく間伐材として市場に出荷できる大きさに成長しています。

会の発足のきっかけは15年前の森林組合総代会です。組合員から要望を受けて研修会を開催することになったのですが、参加を呼びかけるルートがなかったため人が



間伐材でベンチを製作

集まりませんでした。そこで、森林組合の職員が「林業研究グループを作ってはどうか」と提案したところ十数名の賛同者があつたため、役場の担当者が「木の元に集まろう」という意味の「Natural Wood Station」の頭文字をとり「三木「NWS」の森研究会」として誕生しました。会員は町内に山林を所有し、会の趣旨に賛同する方々で構成されています。

■間伐材のベンチ製作や竹林整備など多彩な活動を展開
研究会では、総会と四半期ごとの役員会で活動の打ち合わせや情報交換を行っています。恒例の取り組みは、地元のお祭りへの出展、県外視察研修、会員相互の所有山



製作して2年経ち、風合いが出てきたベンチ

出したヒノキでベンチを5台製作しました。加工に使用する道具の取り扱いを習得するねらいもありチェーンソーについてはプロを講師に招いて基礎から学びました。製作したベンチは町内の公共施設に寄贈され、2年経過した今では良い風合いとなり、憩いの場として活躍しています。

19年度は、会員所有のタケノコ生産林で竹林整備実習と間伐竹材の販売を行いました。良質なタケノコを生産するための竹林整備と、昨今問題となっている無用な竹林拡大防止の両方の意味が込められています。間伐竹材は計18t搬出され、香川県内の竹炭・竹酢液製造会社に販売されました。これらにかかった人員、時間、経費の記録は県の歩掛かり調査に役立って

います。

また今年度の夏は、会員を対象に所有山林および会の活動への要望についてアンケート調査を行いました。集計結果から見えてきた問題点の対策や要望の高かった活動項目については、次年度からの活動計画に取り入れていく方針で



会員同士で山をお互いに視察し情報交換

す。12月には会員の森林施業技術の維持と向上のため、町有林で間伐本数調査の講習会を開催します。講師は林業普及指導員です。枝打ち、間伐作業は来年度以降に計画されています。

■「山は預かりもの」という意識
先日の役員会で「山は国から預かっているもの。個人のもと思っただけではいかん」という発言があり、皆様が一言にうなずかれていた様子を見て心を打たれました。利益のみにとらわれない山への愛情と理解の深さ。この想いが次世代に伝わり、時代にあった森づくりができるよう私たちも努力していきたいと思えます。

(香川県東部林業事務所 森づくり推進担当)

林業普及指導員 石丸真弓